

柴田町新図書館基本構想  
参考事例集

令和5年8月

# Ⅰ 美祢市図書館基本構想

【策定年月】2021年11月策定

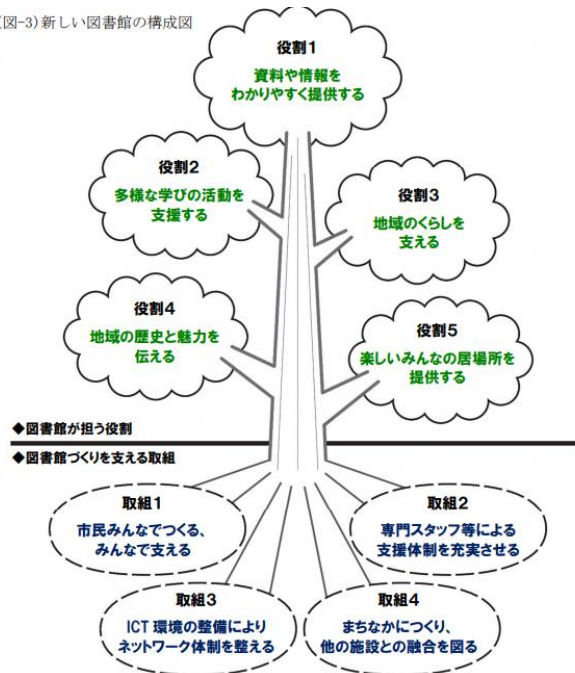
【基本理念】

歴史(むかし)をたずね、現在(いま)を知り、未来(あした)を育む、わたしたちの「ひろば」

【計画のポイント】

基本理念を実現するために5つの役割と4つの取り組みを取り決めている。木をモチーフにした構成図にすることで、新しい図書館の役割を果たすための4つの取り組みが重要であるということが図で分かりやすく表現されている。

(図-3) 新しい図書館の構成図

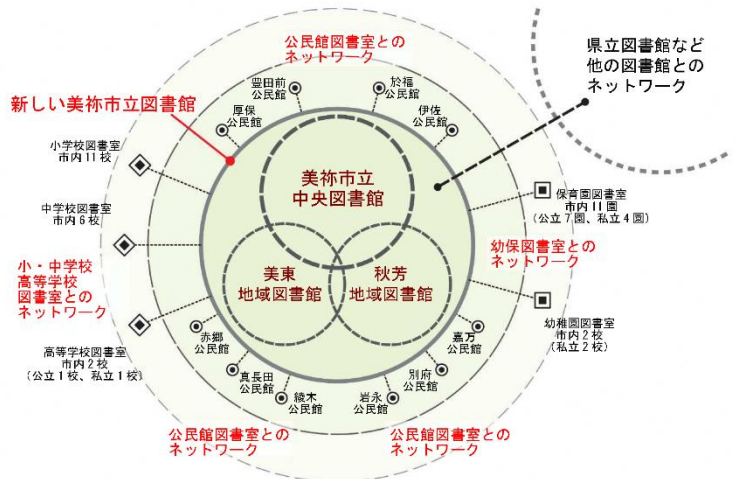


美祢市ではこれまで3館体制で図書館運営を行っていたが、今後は美祢図書館が中央図書館の役割を果たし、3館や他の図書館とのネットワークを形成する「美祢システム」を構想している。

～新図書館のイメージ～

- ・中央・地域図書館間の本の貸し借りの連携
- ・0歳児検診時に絵本の提供、絵本の読み聞かせイベント、図書館の近くにカフェ
- 子育て世代への支援
- ・レファレンスの充実
- ・県や保育園等、他の施設との連携
- ・新刊のリクエスト

等



## 2 美祢市図書館基本構想

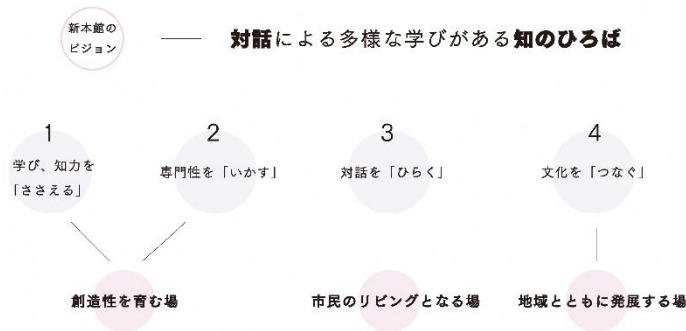
【策定年月】2022年4月策定

【ビジョン】

**対話による多様な学びがある知のひろば**

【計画のポイント】

図書館を「本や他者との対話を促し、多様な声に耳を傾ける場所」と定義しており、利用者の要求に柔軟に答えられる広場のような場所を目指す。



～ビジョンを実現するための4つの基本方針～

・**基本方針1 学び、知力を「ささえる」**

→子供の自主性を育む(子供のための読書スペースの設置)、館外への読書普及

・**基本方針2 専門性を「いかす」**

→図書館員の人材育成、市民の創造性を高める

・**基本方針3 対話を「ひらく」**

→多様な人達の交流の場となる、文化を身近に感じる仕組みをつくる(創作活動等を支援するフリースペースの設置、カフェ等の併設)

・**基本方針4 文化を「つなぐ」**

→文化施設や商業施設との連携、図書館サポーターの育成、分館や他館とのネットワークの強化

### 3 豊中市(仮称)中央図書館基本構想

【策定年月】2021年2月策定

【コンセプト】

つながる。わたしの図書館で。

【計画のポイント】

豊中市図書館がこれまで大切にしてきた「つながる」という機能を引き続き活かすとともに、未来へとつないでいきたいという思いが込められている。

#### 豊中市立図書館の基本方針

<基本コンセプトと3つの基本方針>

つながる。わたしの図書館で。

- (基本方針1) すべての市民の「わたしの図書館」へ ～図書館の多様な利用を提案～  
(基本方針2) 知や情報とつなげる ～資源を生かし、市民の情報アクセスを保障～  
(基本方針3) 未来へつなぐ ～持続可能な組織の構築～

<基本方針を推進するための取組みや蔵書の方針>

取組み サービス	<ul style="list-style-type: none"><li>● 読書バリアフリーの推進を見据えた電子書籍等の導入</li><li>● 図書館に行かなくても利用できるサービスの充実</li><li>● 市民・地域活動の支援を行うとともに新たなつながりを創出</li><li>● 『小・中学校におけるICTを活用した「学び」の基本方針』の推進支援</li></ul>
施設配置	<ul style="list-style-type: none"><li>● 中央図書館を中心とした新たな図書館網を構築</li><li>● サービスポイント(予約資料の受取返却場所)を新設し利便性向上</li></ul>
蔵書	<ul style="list-style-type: none"><li>● 現行の「豊中市立図書館全体で蔵書100万冊」をベースとする</li><li>● 蔵書に関する業務の一元化やレファレンスコレクションの集約化</li></ul>

<豊中市立図書館の3つの基本方針>

(1) すべての市民の「わたしの図書館」へ ～図書館の多様な利用を提案～

#### 主な取組み

- サービスポイント設置等、利便性確保による利用者層の多様化
- 学校連携・アウトリーチ等特徴的な取組みの維持
- これからの生活様式に即した非来館型サービス等の提供
- 「場としての図書館」の効果的な活用

(2) 知や情報とつなげる ～資源を生かし、市民の情報アクセスを保障～

#### 主な取組み

- (仮称)中央図書館を中心としたサービス網の構築
- デジタル化社会に対応した、多様な媒体による情報の提供
- 政策課題や地域課題に対応する情報の積極的収集
- 人と人、人と情報をつなぐ担い手の育成

(3) 未来へつなぐ ～持続可能な組織の構築～

#### 主な取組み

- 事業コストを意識した運営計画(目標設定と行程の明確化)
- 計画的な施設の更新改修と再編
- 公民連携や自治体間連携の強化による効率的な管理運営
- ICTの積極的な活用による人員配置

## 4 小松市未来型図書館基本構想

【策定年月】2023年3月策定

【ビジョン】

こまつを編む。こまつを巡らす。

—まちの「情報」・まちの「つながり」・まちの「とき」—

【計画のポイント】

施設が担っていく3つのコンセプトは相互に作用し融合している関係を表している。互いに重なり合い、補い合いながら各要素が持つ役割を発揮することでビジョンの実現を目指す。  
3つの要素が重なり合った中心には、「ともに作る図書館をつくる」のテーマのもと、「共に創る」を据えている。



※各機能は、複数のコンセプトに位置付けられる場合があります。

～コンセプト～

### ・人の営みや情報の核となる拠点 (こまつベース)

→情報が垣根を超えてつながり、集約された拠点となります。地域資源(ヒト・モノ・コト・場所)の個々の特徴を活かしながら結び付け、編集して活かしていくまちの核としての役割を持ちます。

### ・持ちより共有し、出会う場 (こまつcommons)

→人々が、得意なことや悩み等、様々なことを持ち寄り共有する場です。誰でも分け隔てなくそこに居ることができ、人が集まり出会うこと、やりたいことを支えていく場としての役割を持ちます。

### ・ともに作り、育む場 (こまつキャンパス)

→多様な人が関わり合いながら作り、人やまちを育てていく場です。ともに学び、ともにまちの未来を描いていく場としての役割を持ちます。

## 5 新富谷市民図書館整備基本構想

【策定年月】2017年策定

【理念】

**歴史を受け継ぎ、未来をつくる市民の、市民による、市民のための知の広場**

【計画のポイント】

2020年に開宿400年を迎えた「奥州街道宿場町」としてその面影を残すまちとして、歴史を学び、未来につないでいくとともに、世代の違いや障害の有無に関わらず、すべての人が集える空間であることや、市民協働による図書館づくりを目指している。

～基本方針～

**1. 生涯を通じた学びを提供する場所**

生涯のいつでも、自由に学習機会を選択し学ぶことで、一人ひとりの潜在能力を最大限伸ばしていく機会を提供します。また、さまざまな世代と一緒に学び合う機会を通じて、「知」の循環が生み出される場所としても機能していきます。

**2. 富谷市での暮らしを豊かにする場所**

富谷市での暮らしを豊かにするための情報や、課題を抱えている人には、その解決につながるような情報を提供していきます。

**3. 子どもの成長を応援する場所**

富谷市は、子どもに投資していきます。子どもが、言葉を学び、表現力や創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身につけていく上で欠くことのできない読書の環境を整えます。また、保護者に対して、子育てのために必要な情報や空間を提供します。

**4. 文化・芸術との出会いを生む場所**

富谷市で行われているマーチングバンドの活動や「富谷の田植踊」などの伝統芸能等、市民が文化・芸術に触れ、自らが表現をしていくための支援を行います。

**5. コミュニティづくりの場所**

一人ひとりの居場所であり、知り合いをつくることのできる、コミュニティづくりの場所として機能します。富谷市で暮らすすべての人たちの受け皿として機能していきます。

**6. 富谷市の魅力を発見する場所**

田園都市として整備が進む地区もあれば、奥州街道の宿場町が存在する、新・旧交わる富谷市だからこそその魅力を発見し、その魅力を、市民自らが発信する拠点として機能していきます。

## 6 伊東市新図書館基本構想

【策定年月】2021年3月策定

【コンセプト】

『夢と未来を育む図書館』～ひとりひとりの創造拠点～

【計画のポイント】

全国また海外からも多くの人々が訪れる「国際観光温泉文化都市」伊東市の知・文化・歴史を収集記録し、内外に発信し続けることで、シビックプライドの醸成と文化や知の発展に寄与する事はもちろん、未来を担うひとりひとりが夢を育み、未来を育む事ができるような創造拠点として、「この図書館があるから伊東市に行ってみたい、住んでみたい、住んでいたい」と思えるような図書館を目指す。

～新図書館で拡充が必要な7つの機能～

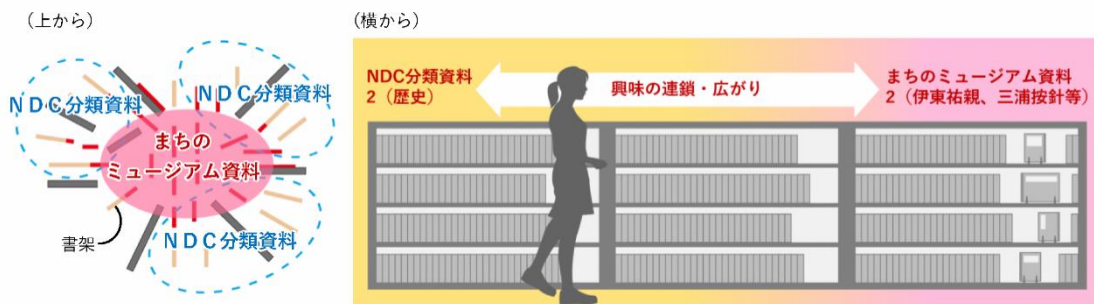
- ・交流機能
- ・一般コーナー機能
- ・伊東市情報センター機能
- ・児童コーナー機能
- ・ティーンズコーナー機能
- ・生涯学習センター機能
- ・ICT機能

～新図書館で拡充が必要な市全体の図書館サービス～

- ・市内各施設でのサテライトサービス
- ・アウトリーチサービス
- ・地域連携サービス
- ・新図書館へのアクセス強化
- ・ICT活用による遠隔地へのサービス

地域の情報を集約し、新図書館において拡充が必要な7つの機能、サービスを結びつける役割を持ち、誰もが利活用できるエリア「まちのミュージアム」を施設の中心部に構築する。

従来の郷土資料に加え、観光に関する資料や市民の活動記録、伊東から連想される資料等を「まちのミュージアム資料」として幅広く収集する。



※NDC（日本十進分類法）：図書を主題ごとにグループ分けし、0～9のアラビア数字で表す図書分類法

## 7 益子町図書館基本構想

【策定年月】2021年3月策定

【基本理念】

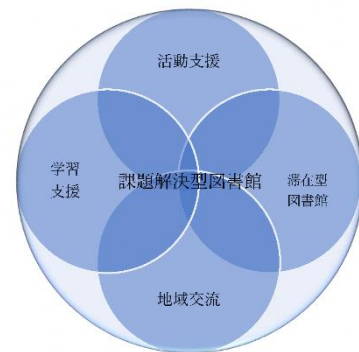
### 未来を育む知の広場

【計画のポイント】

課題解決図書館を核として、地域の多種多様な課題を町民が主体となって解決する助けとなる情報のハブとしての複合施設を目指す。



課題解決型図書館を核とした複合施設の概念図



#### ・基本方針1 交流の拠点

- ・町民が集い、憩い、交流する場の提供
- ・すべての世代が利用できる学びの提供
- ・静けさと賑わいの調和した空間の提供

#### ・基本方針2 育ち、学ぶ拠点

- ・地域・学校・家庭と連携
- ・子育て世代が親子ともに育つ場の提供
- ・豊かな心を育む場の提供

#### ・基本方針3 文化の拠点

- ・地域の魅力を伝えるための情報発信
- ・郷土資料の収集・保存・活用
- ・郷土・文化など多様な学びの場の提供・支援
- ・益子と人をつなげる観光サービス

#### ・基本方針4 暮らしの拠点

- ・町民の活動を支える拠点
- ・町内経済の活性化
- ・町民の健康、福祉の増進
- ・災害対策のための地域防災拠点



## 8 新花巻図書館整備基本構想

【策定年月】2017年8月策定

【基本方針】

- 郷土の歴史と独自性を大切にし、豊かな市民文化を創造する図書館
- すべての市民が親しみやすく使いやすい図書館
- 暮らしや仕事、地域の課題解決に役立つ知の情報拠点としての図書館

【計画のポイント】

新しい花巻図書館の整備にあたっては、市民一人ひとりの生活や活動を支援することを基本的に考えながら、先人が育んできた「学びの精神」を受け継ぎ、図書館が次世代を担う子どもの読書活動を支援し豊かな心を育てる施設として、また情報を地域や産業の創造に結びつける施設として、まちや市民に活力と未来をもたらす図書館を目指す。

～新花巻図書館整備方針～

① 施設に関すること

→ユニバーサルデザイン(バリアフリーへの対応)、十分なスペースを確保、先人や郷土資料のスペースを設置、子どもスペースを設置、防災、防犯対策、環境へ配慮、必要な駐車スペースを確保、施設の併設等の検討

② 蔵書に関すること

→広い分野の収集、先人や郷土資料を充実、視聴覚資料や電子資料の活用

③ 運営に関すること

→利用しやすい開館時間、利用者の視点、図書館ボランティアとの協働、職員体制の充実

④ サービスに関すること

→レファレンスサービス(相談支援)の充実、中央図書館としての機能、情報発信を強化、新たなシステムへの対応